

令和 2 年 3 月 13 日

## 妊娠初期段階での母体の歯周病が 出産まで継続して胎児の発育に影響を与える可能性を明らかに

### ◆発表のポイント

- ・妊娠期の母体の歯周病は、出生時の子どもの低体重と関係があることが報告されていますが、これまで母体の歯周病と、胎内にいる間の子どもの発育の状況との関連性を経時的に調べた研究はありませんでした。
- ・妊娠初期段階で歯周病があると、それ以降生まれるまで、胎児の推定体重は歯周病がない人の場合よりも低い値を推移することが分かりました。
- ・妊娠がわかった時点で歯科治療を受けるのではなく、妊娠前から健康な歯周状態を有することが、生まれてくる子どもの適正な体重に関係する可能性が示唆されます。

岡山大学病院予防歯科の田畑綾乃助教、同大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田学教授の研究グループは、妊娠初期における母体の歯周病が、妊娠期間中を通して胎児の発育状況に影響を与えることを明らかにしました。

妊娠期の母体の歯周病は、出生時の子どもの低体重と関係があることが報告されていますが、両者の関係に関するこれまでの研究のほとんどが、「妊娠中の母体の歯周状態」と「出生時の子どもの体重」との関係のみ調べたもので、胎内にいる間の子どもの発育の状況との関連性を経時的に調べたものではありませんでした。本研究では妊娠初期の母体の歯周病の有無と、胎児の発育の推移を調べました。その結果から、妊娠がわかった時点で歯科治療を受けるのではなく、妊娠前から健康な歯周状態を有することが、生まれてくる子どもの適正な体重に関係する可能性が示唆されました。本研究結果は1月29日、イギリスの学術専門誌「*Scientific Reports*」のオンライン版で公開されました。

### ◆研究者からのひとこと

いずれ妊娠を予定している女性の方へ、自分のためにも生まれてくる我が子のためにも、日頃から口腔内を健康に保つことをお勧めします。

また、研究を進めるにあたりご協力いただいた、岡山大学病院産科婦人科のスタッフの皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。



田畑助教



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

歯周病は多くの人がある歯科疾患です。歯の周りの組織（歯肉や骨）に炎症が起き続けることで、歯が抜ける原因となるだけでなく、さまざまな全身の疾患とも関連していることが報告されています。妊娠期において、母体の歯周病は早産のリスク要因の一つであり、その結果、低体重出産につながると考えられています。出生時の適正な体重は、乳幼児期はもちろんその後の成人期の健康にも大きく関わってくる可能性があります。

過去にも、母体の歯周病と出生時の子どもの低体重との関連性が多く報告されてきましたが、そのほとんどが生まれた直後の子どもの体重を評価したものであり、胎内における発育段階での体重との関連性を経時的に調べた報告はほとんどありませんでした。

#### <研究成果の内容>

今回私たちは、妊娠初期の母体の歯周病の有無と、胎児の発育の推移を調べました。岡山大学病院を受診した中で研究協力に同意を得られた妊婦に対し、妊娠初期に歯周検査を行い、歯周病の有無を判断しました。歯周病の有無により、出産までの超音波測定による胎児の推定体重などを比較しました。その結果、以下のことが明らかとなりました。

- ① 健康な人と比較し、歯周病のある人では出生時の子どもの体重が軽いことがわかりました。これは過去の研究と同様でした。
- ② 超音波測定により調べた、出生までの胎児の推定体重も、歯周病のある人では一貫して低い値を推移することがわかりました。また、その差は、妊娠30週あたりから顕著になっていました。

#### <社会的な意義>

妊娠初期の段階での母体の歯周病の状態は、それ以降の妊娠期間中を通して胎児の発育に継続して影響を与える可能性が示されました。過去の報告では、妊娠中に歯周病治療をしても出生時の子どもの低体重のリスクを減らすことはできないとする研究もあり、これらのことから、出生時の子どもの適正な体重のためには、妊娠がわかった時点ですでに健康な歯周状態を有していること、すなわち妊娠前から健康な口腔であることが望ましいと考えます。

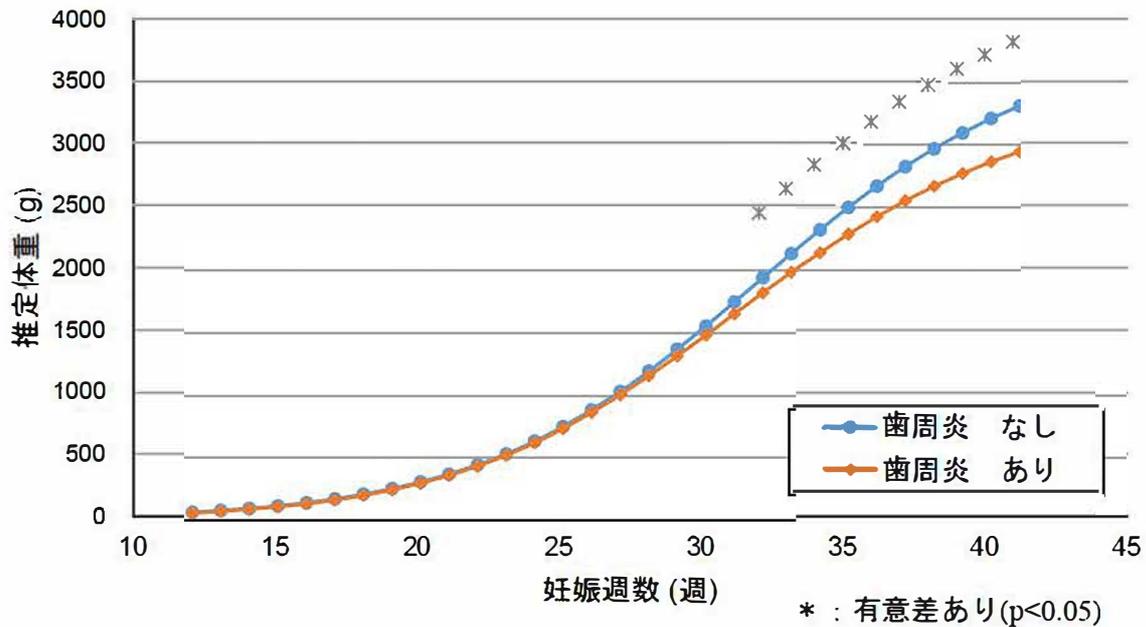


図 歯周炎なし／ありによる胎児の推定体重の変化

■論文情報

論文名 : Association between maternal periodontal status and ultrasonographic measurement of fetal growth: A longitudinal study.

掲載紙 : *Scientific Reports*

著者 : Taniguchi-Tabata A, Takeuchi N, Uchida Y, Ekuni D, Morita M.

DOI : /10.1038/s41598-020-58396-7

URL : <https://www.nature.com/articles/s41598-020-58396-7>

■研究資金

本研究は、日本学術振興会 科学研究費助成事業の支援を受けて実施しました (No. 25463241)。

<お問い合わせ>

岡山大学病院 予防歯科

助教 田畑綾乃

(電話番号) 086-235-6712

(FAX) 286-235-6714

